

PETRI ME10

使用説明書

お買上げありがとうございます。

このたびはペトリMF-10をお買上げいただき有難うございます。

ペトリMF-10は、38-70^mズームレンズを標準装備し、あらゆるテーマに対処できるように、すべての機能を備えたカメラです。

どんな厳しい要求にもお応えできる、万能一眼レフ=ペトリMF-10をお使いになる前に、この説明書をお読みいただき正しい操作で、長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目次

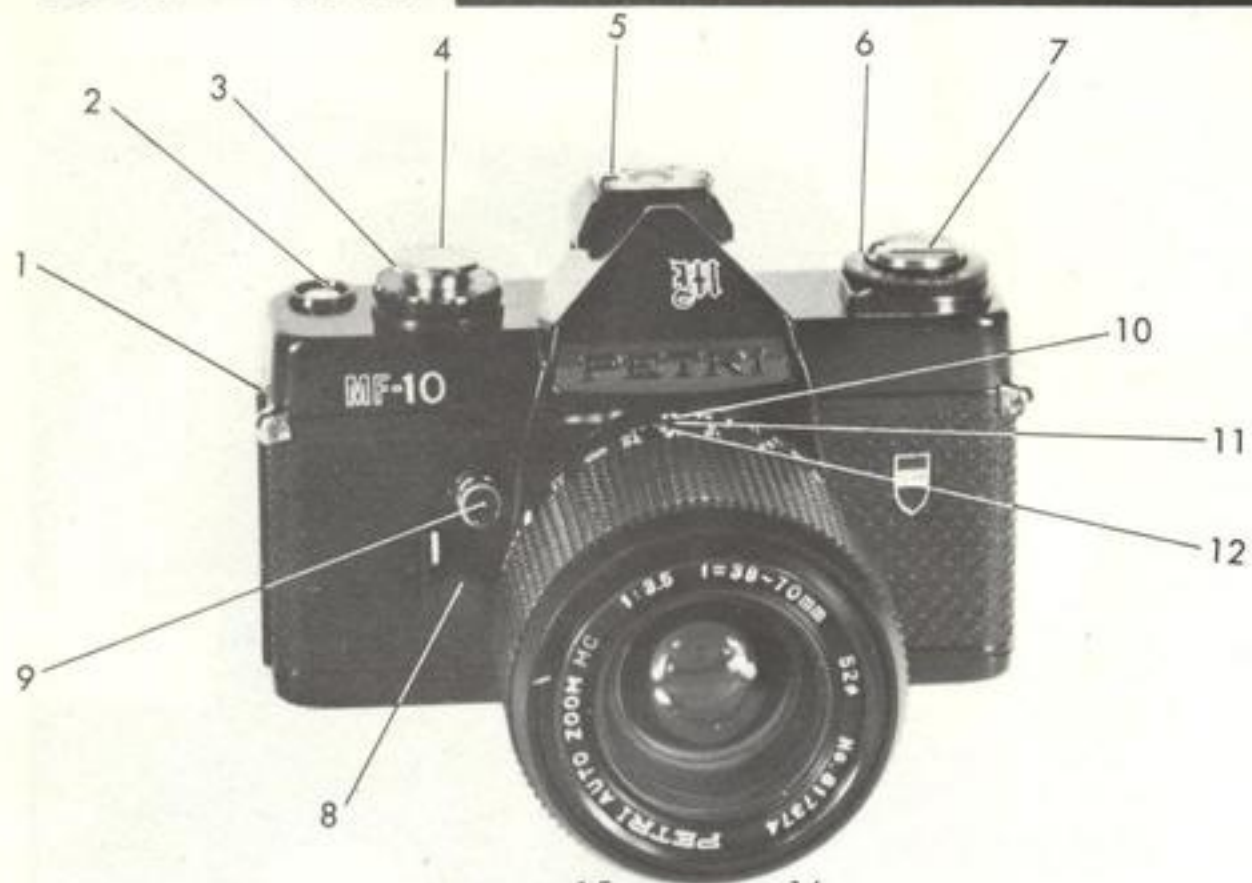
性能及び仕様	4
各部の名称	5
水銀電池の入れ方・フィルム感度のセット	6
フィルムの装填	7
フィルム巻上げレバー・フィルムカウンター	8
シャッター速度ダイヤル・露出計の測り方	9
カメラの構え方・被写界深度	10
ピントの合わせ方とズーミング・逆光やフラッシュ撮影 ...	11
フィルムの巻戻し・セルフタイマー撮影	12
M F -10用交換レンズ	13
ストロボ性能及び仕様	14
ストロボ各部の名称	15
撮影準備・発光テスト	16
オート撮影・マニュアル撮影	17
バウンス撮影	18

性能及び仕様

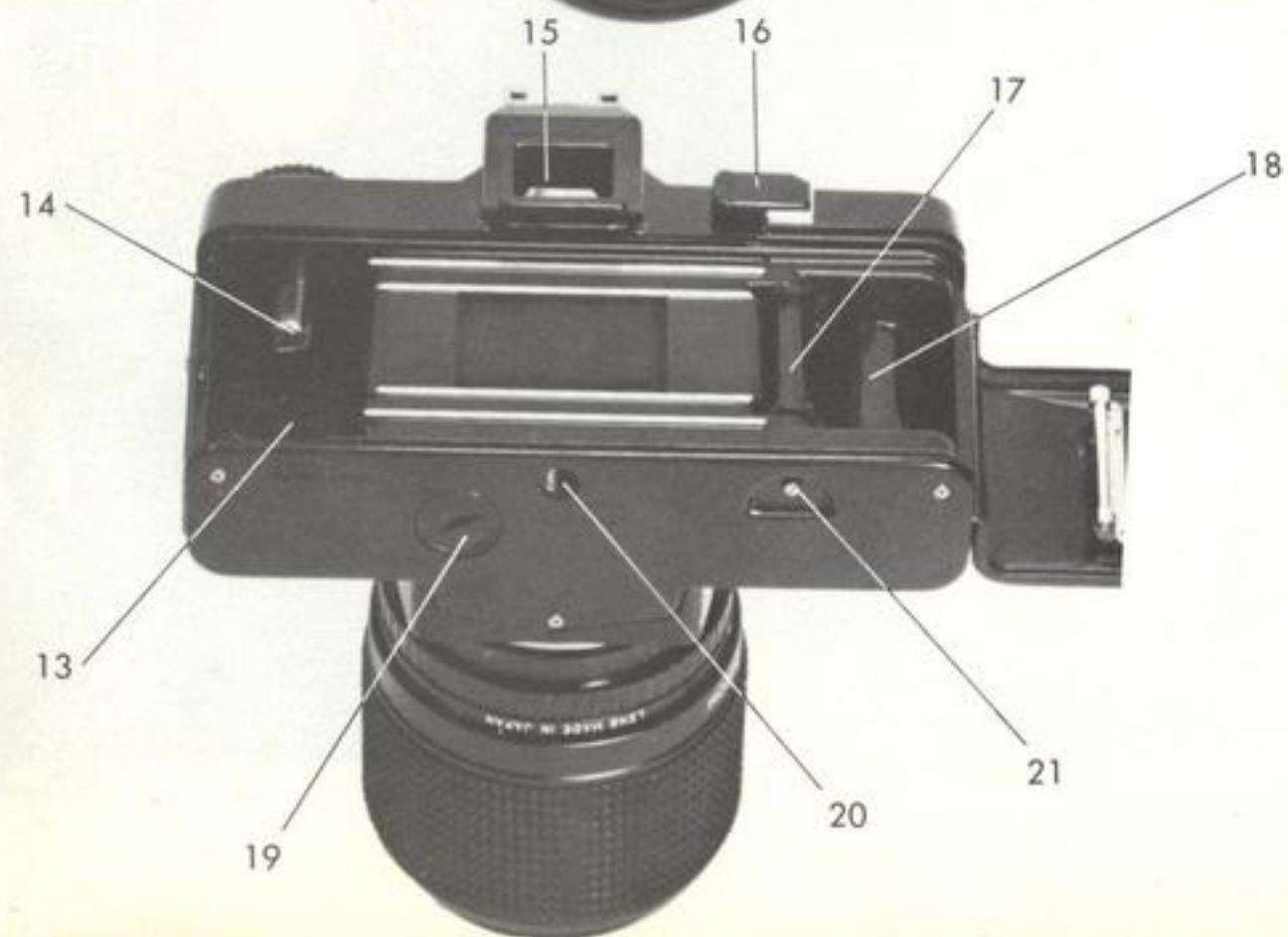
型	式：TTLシステムCdS露出計内臓フォーカルブレン式35ミリ判一眼レフ	シャッター：布幕フォーカルブレン 等間隔倍数系列 1軸不回転ダイヤル B・1~1/1000秒 セルフタイマー内臓
使用フィルム：	パトローネ入り35ミリフィルム	フィルム装てん：シンプルロード システム
画面サイズ：	24×36ミリ 35ミリフルサイズ	フィルム巻上げ：レバー式1作動巻上げ(130°) セルフコッキング、二重巻上げ、二重露出防止
標準レンズ：	ペトリ38~70ミリF3.5ズームレンズ 7群7枚構成 完全自動絞り	フィルム巻戻し：クランク式
レンズ交換：	スクリューマウント方式	フィルムカウンター：順算式、自動復元
ファインダー：	固定式ペンタプリズム マイクロプリズム・フレネルレンズ・コンデンサー併用 露出計指針表示	フラッシュ：X接点(1/60秒)コードレスシンク ロ接点 又は、JIS B型プラグ
ミラー	：クイックリターンミラー	水銀電池：H-Cタイプ1.3V
ピント調節：	回転ヘリコイド式	フィルターサイズ：52mm
露出計：	TTL方式CdS連動露出計平均測光方式 ファインダー内指針による定点式 測光範囲EV3~EV18(ASA100) 感度目盛ASA25~1600 DIN15~33	レンズフードサイズ：52mm
		寸法・重量：132.9×89.5×50ミリ 450グラム (ボデー)

※まず始めに標準仕様の、ストラップ・吊り金具・水銀電池の有無を、お確かめ下さい。吊り金具は必ず、カメラボデーの吊環に取付ける事を忘れないように。(他の個所に取付けますと落下等の不測の事故の原因となります。—その責については当社は一切負いませんので御注意下さい。)

各部の名称



- 1 吊環
- 2 フィルムカウンター
- 3 シャッター速度ダイヤル
- 4 シャッターボタン
- 5 アクセサリーシュー
- 6 フィルム感度ダイヤル
- 7 フィルム巻戻しクランク
- 8 セルフタイマーレバー
- 9 絞り込みボタン
- 10 絞り目盛リング
- 11 焦点深度目盛
- 12 距離目盛リング
- 13 フィルム室
- 14 フィルム巻戻しクランク軸
- 15 ファインダー接眼部
- 16 フィルム巻上げレバー
- 17 スプロケット
- 18 フィルム巻取り軸
- 19 水銀電池格納室
- 20 三脚穴
- 21 フィルム巻戻しボタン



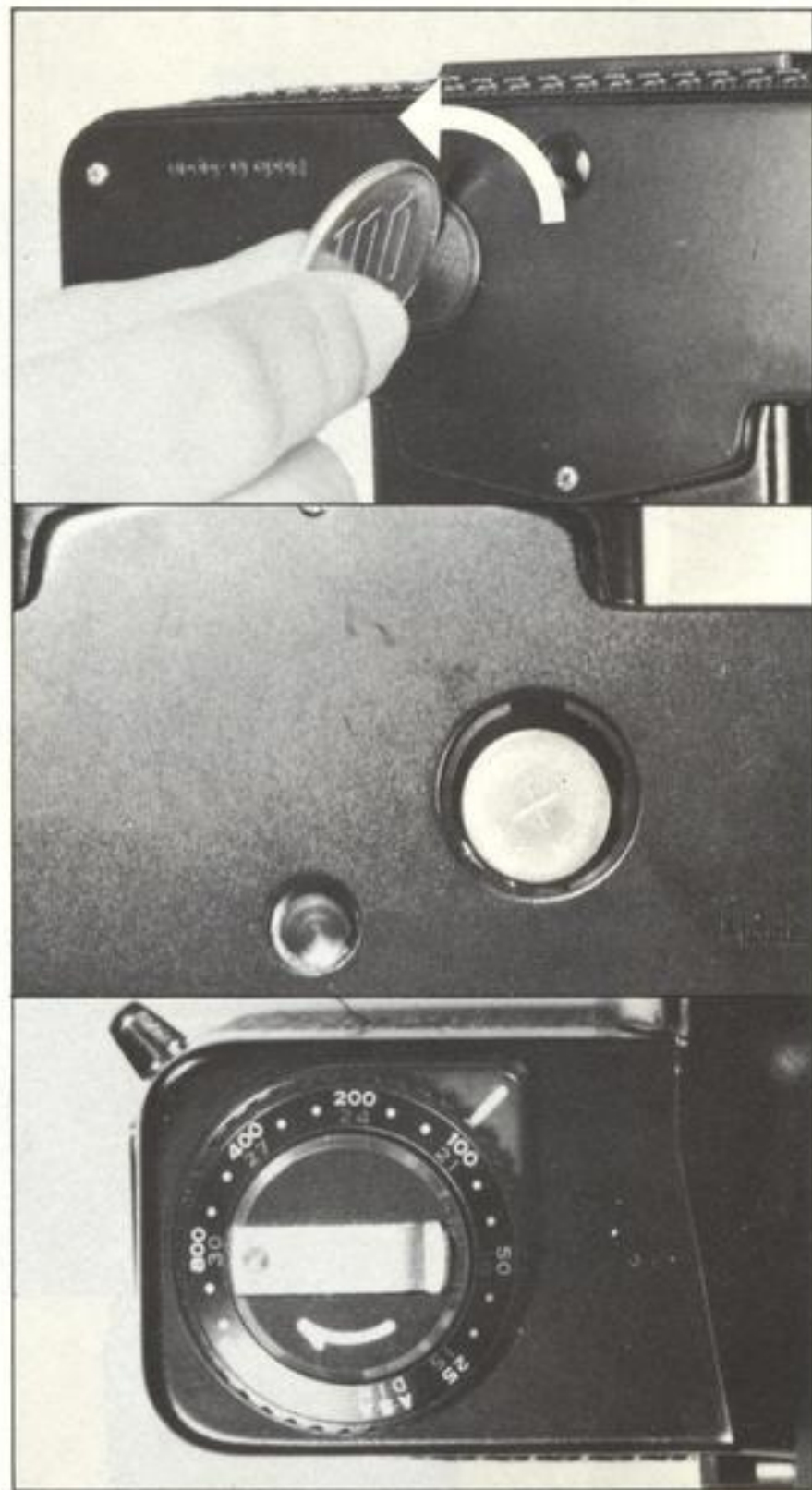
水銀電池の入れ方・フィルム感度のセット

水銀電池（H-Cタイプ1.3V）は水銀電池格納室⑱に入れます。これは内臓されているTTL方式CdS連動露出計を作動させる電源となります。

1. 水銀電池格納室のふたは爪・硬貨などで約60°左に回して開けて下さい。
2. 水銀電池は、ふたの裏側に印されているように⊕文字が外側になるように入れ、ふたを元のようにねじ込んで下さい。
3. 水銀電池のスイッチは絞り込みボタン⑨を押込むとスイッチ・オンされ離すとスイッチは自動的に切れます。絞り込みボタンを押し込んで左に回転させますとロックされます。
4. 水銀電池は寿命が切れると、性能が一時に落ち露出計は働かなくなりますので、すぐわかります。1年位使用したら、なるべく交換するようにしてください。
5. 水銀電池の交換には、H-Cタイプ1.3V（ナショナルM-I C、東芝H-Cなど）をお使いください。

ご使用になるフィルムのASA感度と、カメラのフィルム感度ダイヤル⑥の数字を、あらかじめ合わせておきます。このASAが合っていないと、いかに露出計が正しく作動しても、適正露出は得られません。フィルム感度ダイヤル⑥を右、または左に回し、白線に使用フィルムのASA感度の数字を合わせます。

ASAは国産及びアメリカ系のフィルム感度規格、内側の赤で刻まれたDIN数字は、ドイツ系の感度規格です。



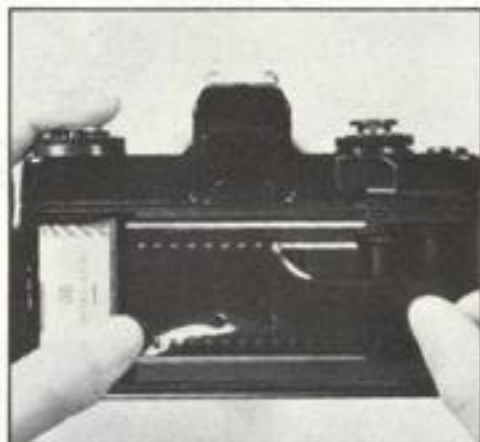
フィルムの装てん

※フィルム装てんは直射日光を避けてください。

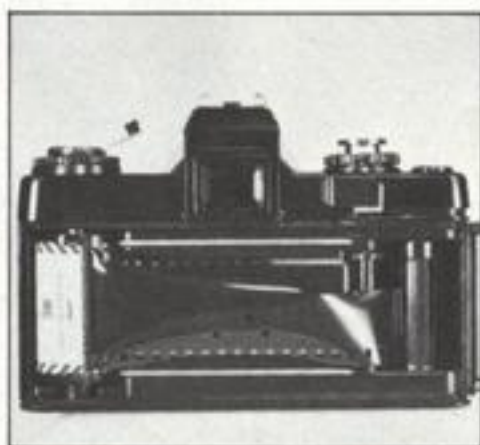
1. フィルム巻戻しクラ
ンクを引上げますと
裏ふたが開きます。



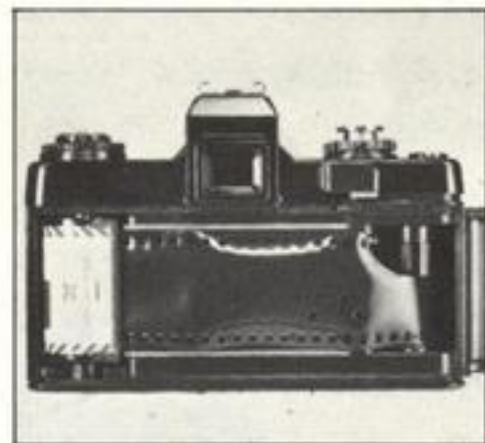
2. フィルムをフィルム
室に入れ、巻戻しク
ランクを元の位置に
戻します。戻らない
ときは左右に少し回
しながら押し込むと
完全に入ります。



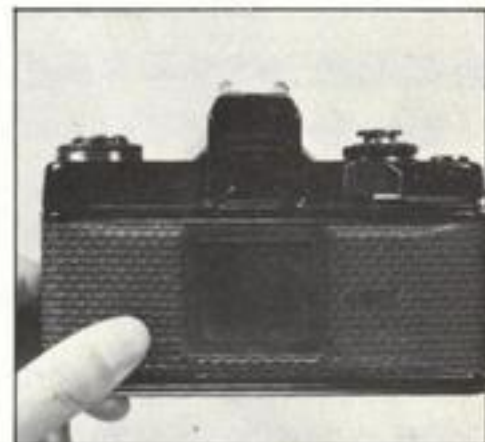
3. 左手で軽くパトロ
ーネをおさえながら、
フィルムの先端を巻
取り軸に刻まれた溝
のどれにでも差込み
いちばん狭い部分の
根本まで引きこみま
す。



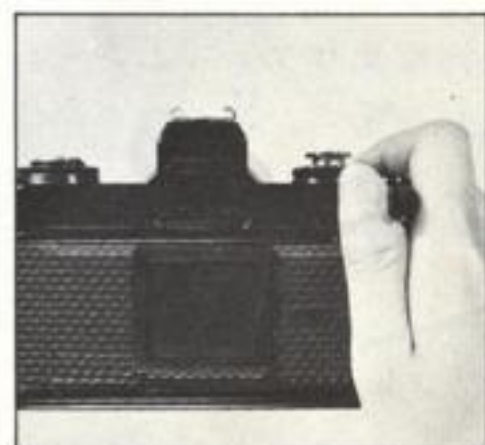
4. 巻上げレバーでフィ
ルムを巻上げ、パー
フォレーション (フ
ィルムに刻まれた穴)
が両側ともスプロケ
ットの歯車に实实在
り噛み合うようにし
ます。



5. 裏ふたを閉じ、念の
ための巻戻しクラ
ンクを起し、クラ
ンクが重く感じるまで矢
印の方向に軽く回し
て、フィルムのタル
ミをとります。



6. 巻上げレバーを巻き
上げ、フィルムカウ
ンターが1の手前の
白い点を指すまでく
り返してください。



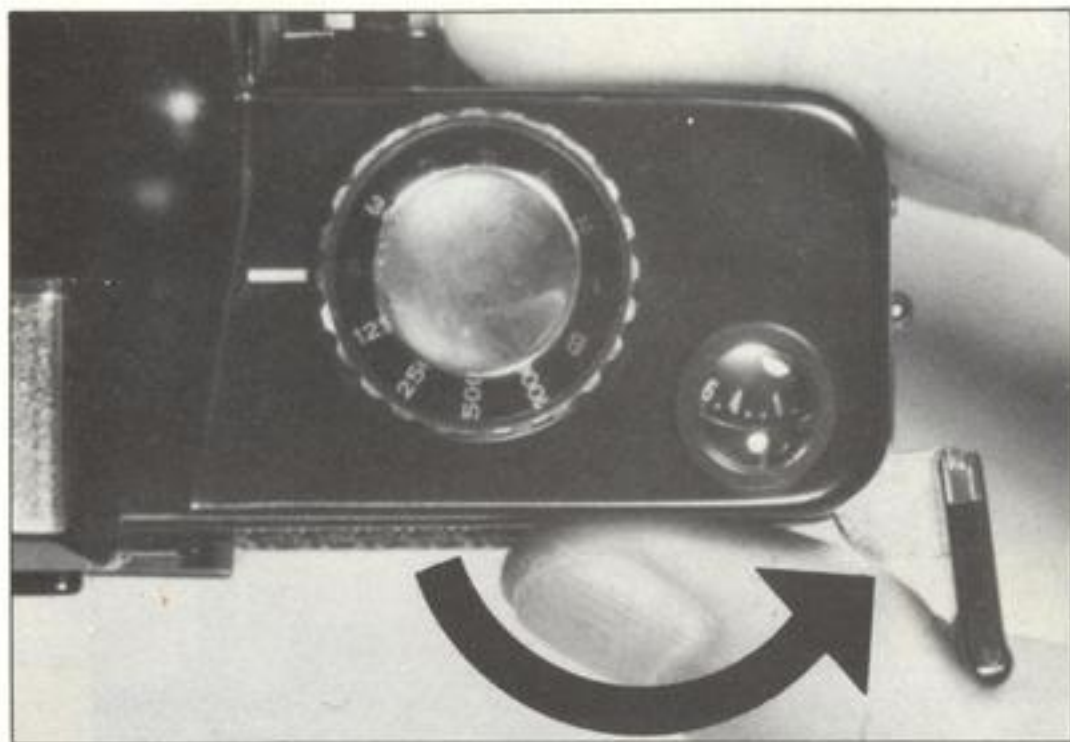
空写しちゅうに、巻戻しクラ
ンクが巻上げにつれて矢印の
逆方向に回っていれば、フィルムは正しく送られています。

フィルム巻上げレバー・フィルムカウンター

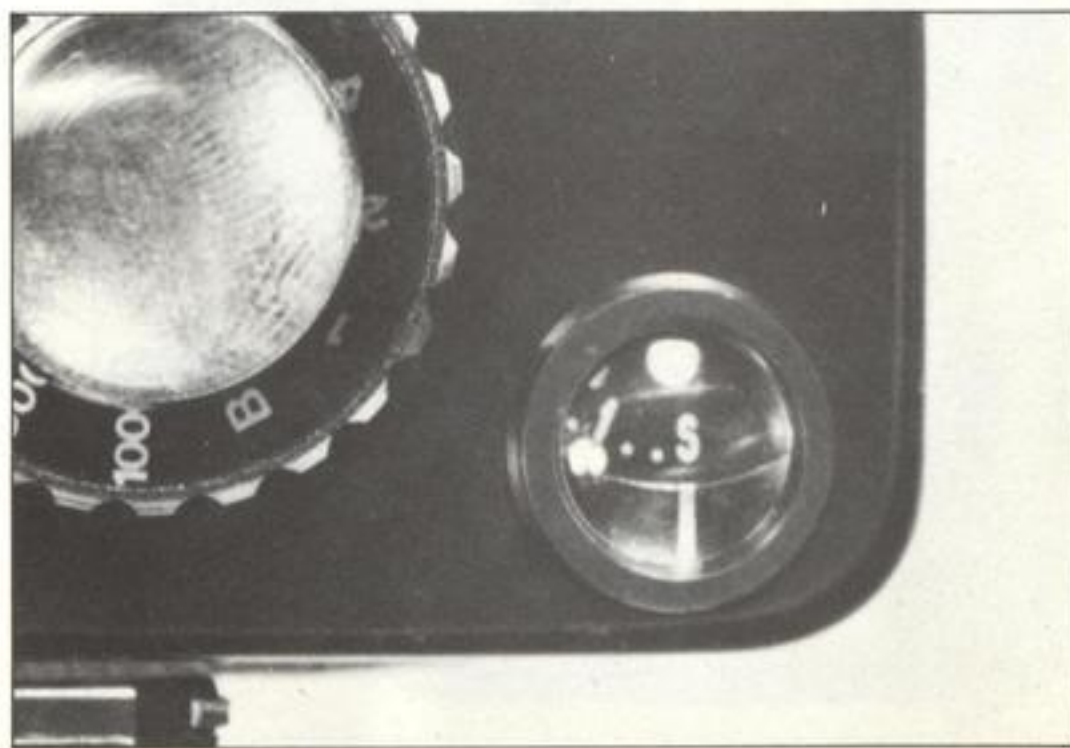
フィルムがセットできましたら、シャッターを切りもう一度巻上げレバーを回し、シャッターを切って下さい。

フィルム巻上げレバーは、親指を掛け、止まるまで回します。一回巻上げると

- ①フィルムが1コマ送られ
- ②シャッターがセットされ
- ③ミラーが作動開始状態になり
- ④自動絞り機構が準備され
- ⑤二重巻上げや二重露出が防止されるなど多くの働きをします。



フィルムカウンターは、S(スタート)、1、4、6、8と2枚毎に数字が刻まれておりますが、巻上げレバーを巻上げると1コマずつ進みます。オレンジ色の指標の先の数字が撮影枚数で12、20と30はオレンジ色で刻まれていますが、これは12枚撮り、20枚撮り36枚撮りフィルムのそれぞれの撮影終了時を告げております。裏ふたを開けると、フィルムカウンターは、自動的にスタート(S)に戻ります。



シャッター速度ダイヤル・露出計の測り方

シャッター速度ダイヤル上の数字を白線に合わせてセットします。1は1秒、2は1/2秒、1000は1/1000秒の意味です。Bはバルブ露出のことで、レリーズボタンを押しているあいだ中シャッターが開き、放すと閉じます。

注1. シャッター目盛はクリックストップになっており、中間速度は使えません。

注2. シャッター速度のセットは、フィルム巻上げの後いずれでも行なえます。

シャッタースピードのセットに際しては次のことを参考にしてください。

戸外での撮影 1/125又は1/250秒

動きのあるもの 1/250～1/1000秒

屋内での撮影 1/30又は1/60秒

1/30秒よりおそくセットをする場合はカメラを動かさないように三脚を使用するか固定させて、ケーブルレリーズを使用して下さい。

本機のTTL露出計は、ASA、シャッタースピード、絞りの3点に完全に連動しますので、シャッターからも絞りからも自由に露出が合わせられます。

1. あらかじめ使用フィルムのASA感度に合わせてフィルム感度ダイヤル(6)をセットして下さい。

2. シャッター速度を決めます。室内や暗い被写体は1/30か1/60秒、屋外や明るい被写体は1/125か1/250秒などが適当でしょう。

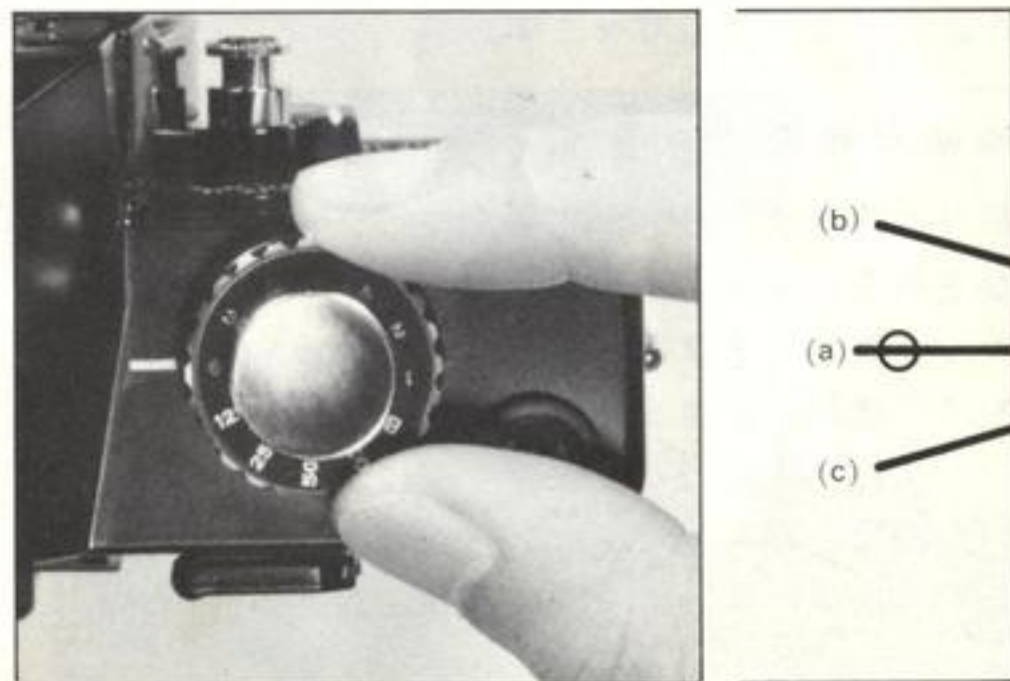
3. 絞り込みボタン⑨を押しながら

4. 絞り目盛の刻んである絞り目盛リング⑩を回しファインダー内のメーター針を指標と合致させると適正露出が得られます。

注1. 絞りを先に決め、シャッターダイヤルで露出を調節することもできますが、シャッター速度が目盛の中間で適正となったときは、近い方の速度を選び、絞りで誤差を調整してください。この場合は、絞り込みボタンをロックして操作すると便利です。

注2. あらかじめセットしたシャッター速度で露出を求めても、適正值が得られないときは、その速度が不適当ですのでセットをし直してください。

注3. 下図(a)適正露出か露出計の作動していない状態
(b)露出過剰の状態
(c)露出不足の状態



カメラの構え方・被写界深度

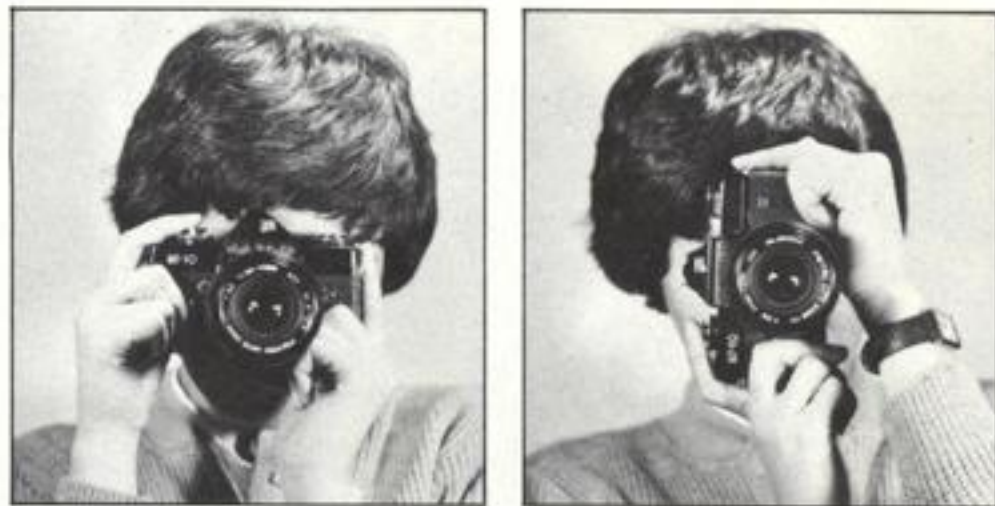
ピントの悪い写真の大半はカメラブレです。美しい写真を撮るには、カメラをしっかり構え、ブレないようにしなければなりません。カメラの保持は、横位置でもタテ位置の場合でも、カメラの背面をヒタイや顔の一部に当てるようにすればカメラブレが防げます。シャッターボタン④を押すときは、一瞬息を止めるようにし、指の腹でボディを押えるように、静かに切ります。

レンズ鏡胴部の緑色の距離指標◆の左右対称に、8、16、22、の数字(Fナンバー)と線が刻まれています。これはピントの合う範囲を示した深度目盛でスナップ撮影などに利用すると便利です。例えば距離を3メートルに合わせ、22に絞ると、 $\frac{38}{60} \times 1.3$ メートルから無限 $\frac{70}{60} \times 2$ メートル位までピントが合い、いちいち距離を合わせなくても写せます。

※被写界深度の確認

絞りこみボタンは、露出の測定と、被写界深度の確認を行ないます。ボタンを離すと、レンズは絞りがセットされたまま開放に戻るので明るいファインダーで、撮影ができます。

レンズ部の手動絞り切換レバーは、レンズとカメラの中間に、接写リングなどを装着した際に使用するので、通常はレバーをAの状態でお使いください。



注1. 横位置にカメラを構えるときは、両ヒジを身体にしっかりつけます。

注2. タテ位置の場合は、右ヒジを身体につけ、左手でカメラを動かないように保持します。



ピントの合わせ方とズーミング・逆光やフラッシュ撮影

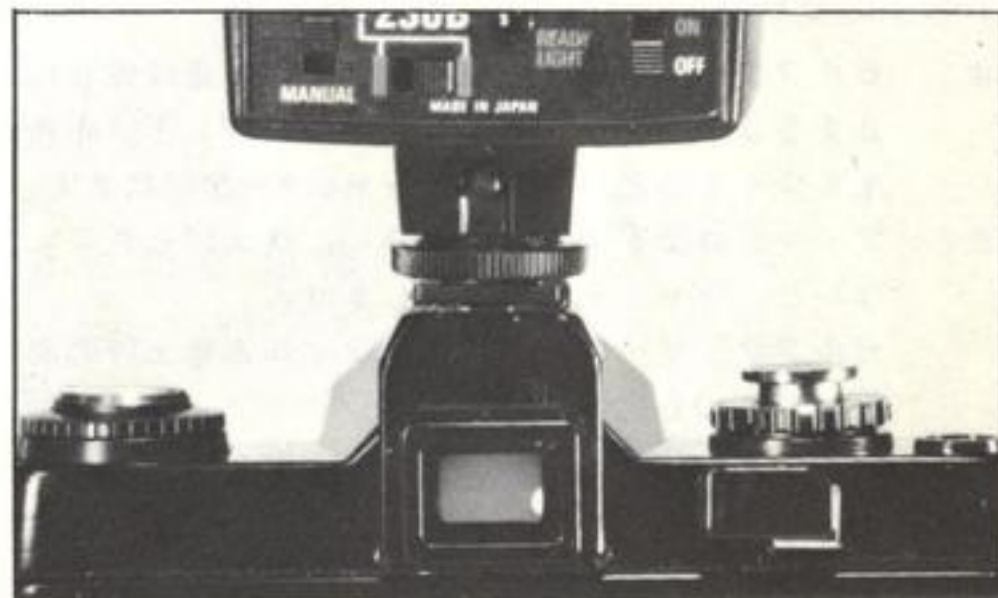
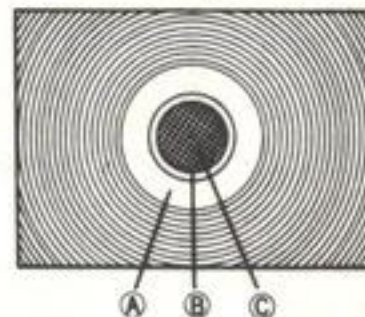
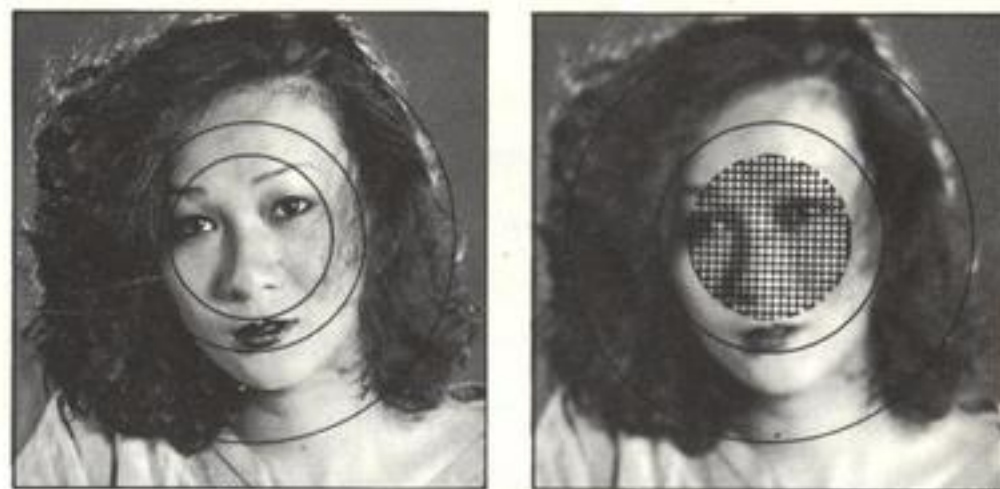
ファインダーをのぞきながら、距離目盛リングを右または左に回すと、被写体がはっきりしてきます。特に中央のマイクロイメージ◎がシャープな像を結んだところでシャッターを切ればピントの合った、写真が写せます。本機のファインダーは、中央のマイクロイメージ◎、ピント合わせのお手本となる透明部Ⓑ、被写界深度確認部Ⓐからなっており、更にその外側はフレネルレンズで面画の隅々まで明るく見られます。ズーミングは、距離リングを前後にスライドして下さい。被写体までの距離(m)はオレンジ色の数字で表示されます。白色数字はフィート目盛です。

被写体の後に光源があるとき、又は被写体そのものが光源であるときは、露出を補正して下さい。絞りを1/2～1目盛開くことにより適正露出となります。夜間や室内で明るくきれいに写すには、フラッシュ撮影が必要です。

本機にはコードレス接点が付いていますので、コードレスタイプのストロボやフラッシュガンをお使いください。

フラッシュ撮影の際にはF級で1/30秒、ストロボでは1/60秒のシャッタースピードを使用して下さい。

本機にはベトリ専用ストロボをお薦めいたします。
(使用法・性能については14頁以後を御覧下さい)



フィルムの巻戻し・セルフタイマー撮影・赤外線撮影

撮影が終わったら、フィルムを巻戻します。20枚撮りフィルムの場合はフィルム枚数計が20、36枚撮りの場合は36を指すか、又は巻上げレバーが作動しなくなったときは撮影枚数の終わったことを示します。

巻戻しは、カメラ底部のフィルム巻戻しボタン②①を押し、フィルム巻戻しクランクレバーを起し、矢印の方向に回します。フィルムを巻戻している間は、クランクが重く感じますが、フィルムが巻取られ、巻取り軸からフィルムの先端が外れると急に軽くなり、巻戻されたことが確認できます。

注1. 巻戻したフィルムは直射日光を避けて取出して下さい。

注2. 撮影済みのフィルムは、放置しておくとも結果はよくありませんので、早目に現象して下さい。

セルフタイマーによる撮影をするときは、セルフタイマーレバーを90度押し下げ、リリースボタンを押すと、約9秒後にシャッターが切れます。

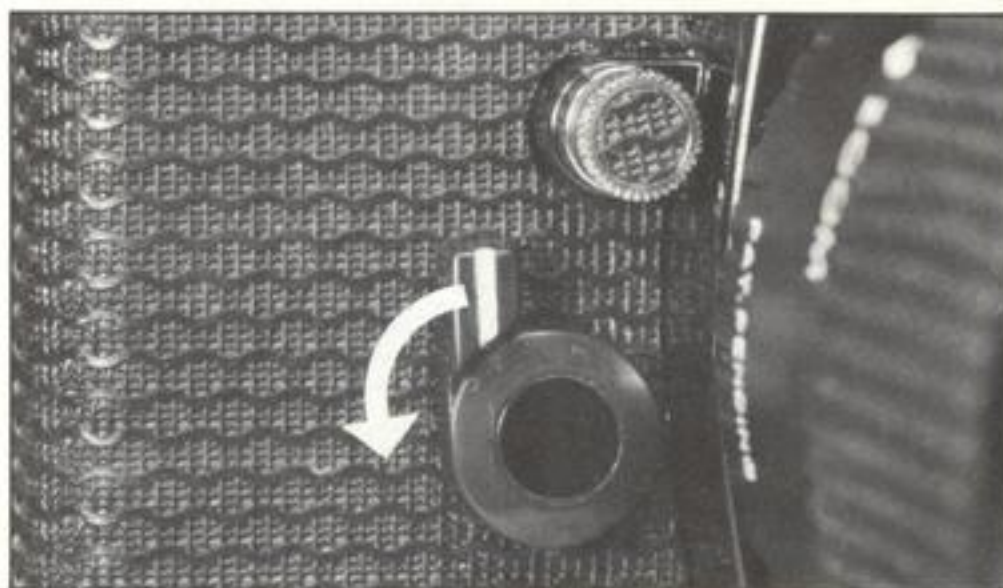
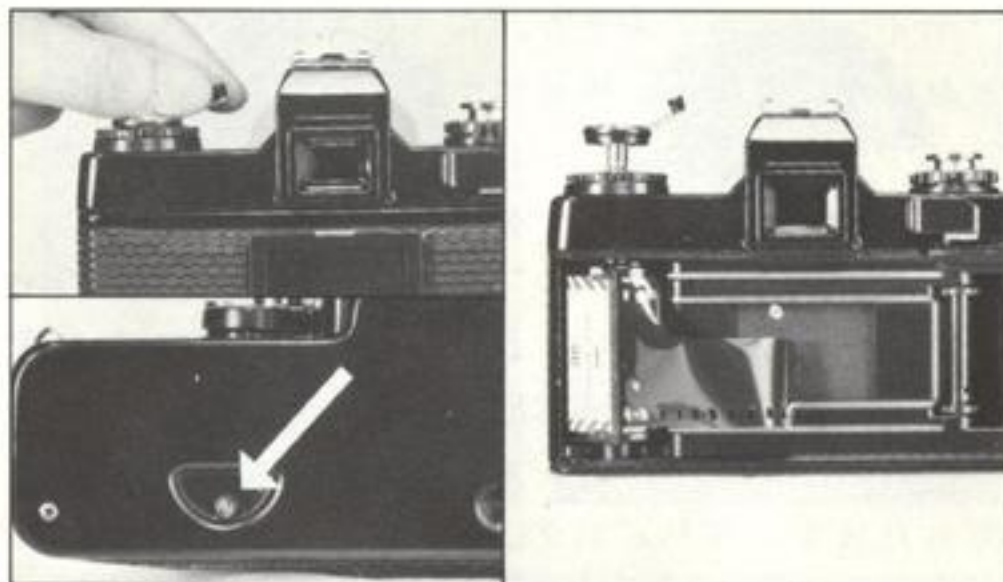
注1. セルフタイマーレバーをセットするときは完全に止まるまで押し下げして下さい。この押し下げの角度を少くすると短い時間でシャッターが切れます。

注2. フィルムは必ず巻上げて下さい。巻上げられていないと、シャッターは作動しません。

セルフタイマーのセットは、フィルム巻上げの前後いずれでも構いません。

注3. シャッター速度は、B以外の全速度が使用できません。

注4. セルフタイマー撮影のときは三脚をお使い下さい。

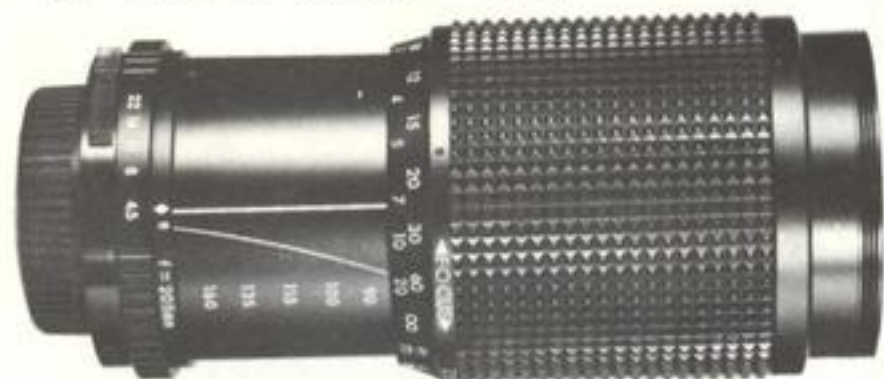


* 赤外線フィルムを御使用の際には、一度ピントを合わせたのちに、その距離目盛を赤外線指標(赤線)までずらして撮影して下さい。

赤外線指標は緑の距離指標(レンズ中央部)の右横の赤線です。なお、赤外線フィルム撮影には、赤フィルターを御使用下さい。

MF-10用交換レンズ

80-205^m F4.5(ズーム)



レンズ構成	9群 13枚
画面	30° ~ 12°
最小絞り	F22
最短撮影距離	2.0m
フィルターサイズ	55φ
長さ	140 ^m
重量	590g

28^m F2.8(広角)



レンズ構成	6群 7枚
画面	74°
最小絞り	F16
最短撮影距離	0.25m
フィルターサイズ	55φ
長さ	55 ^m
重量	230g

135^m F2.8(望遠)



レンズ構成	4群 4枚
画面	18°
最小絞り	F22
最短撮影距離	1.8m
フィルターサイズ	55φ
長さ	85 ^m
重量	380g

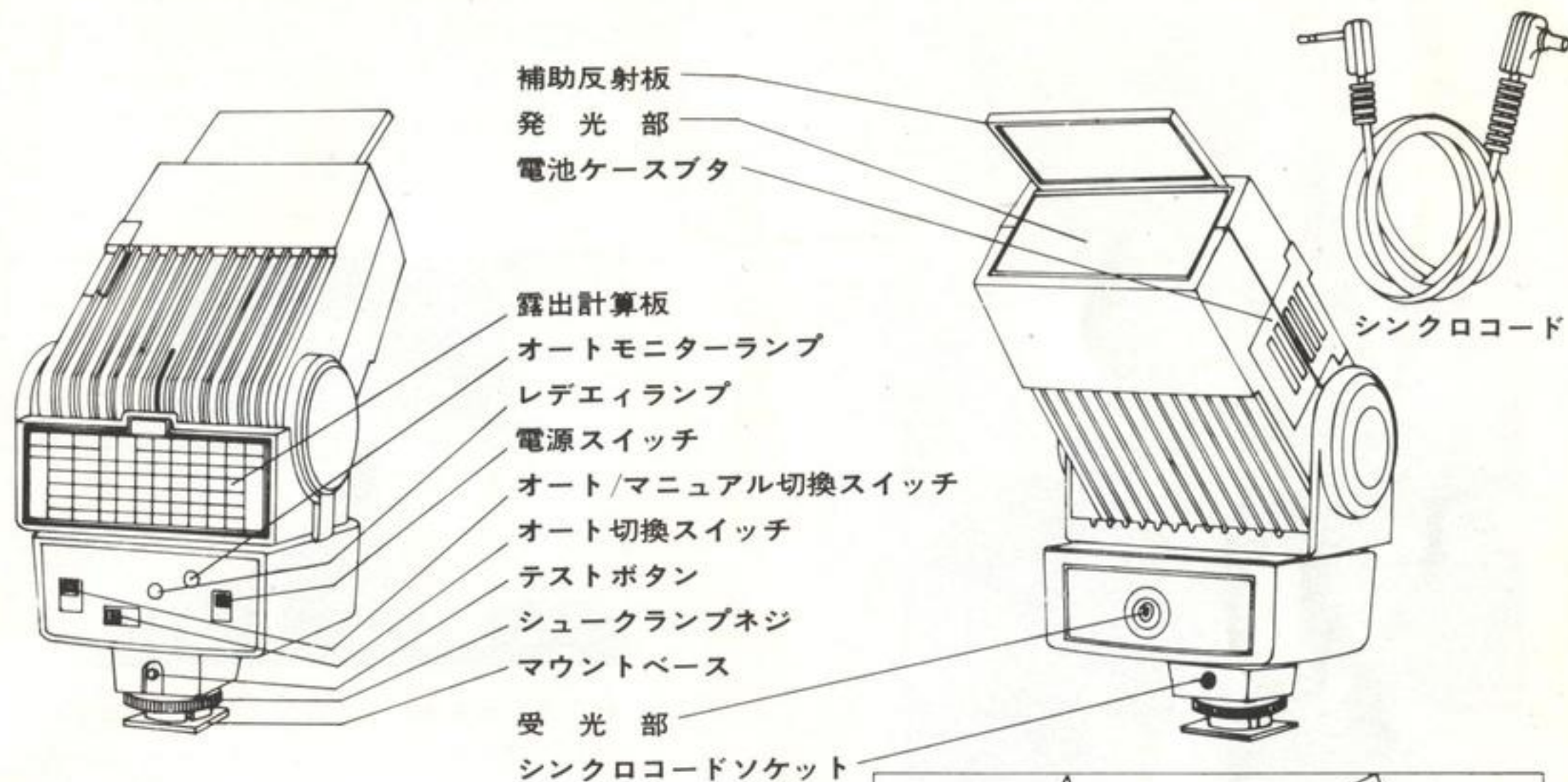
本機の交換方法は、スクリューマウント方式です。
レンズ取りはずしの際は、時計とは反対に、装着の
際は時計方向に廻して下さい。

ペトリストロボ性能及び仕様

- 型式 クリップオン型
- ガイド A S A 100 30
 ナンバー A S A 400 60
- オート
 制御方式 直列制御
- 発光間隔 オート：
 アルカリ乾電池 0.5～10秒
 マニュアル：
 アルカリ乾電池 10秒
- 発光回数 オート：
 アルカリ乾電池約150～800回
 マニュアル：
 アルカリ乾電池約150回

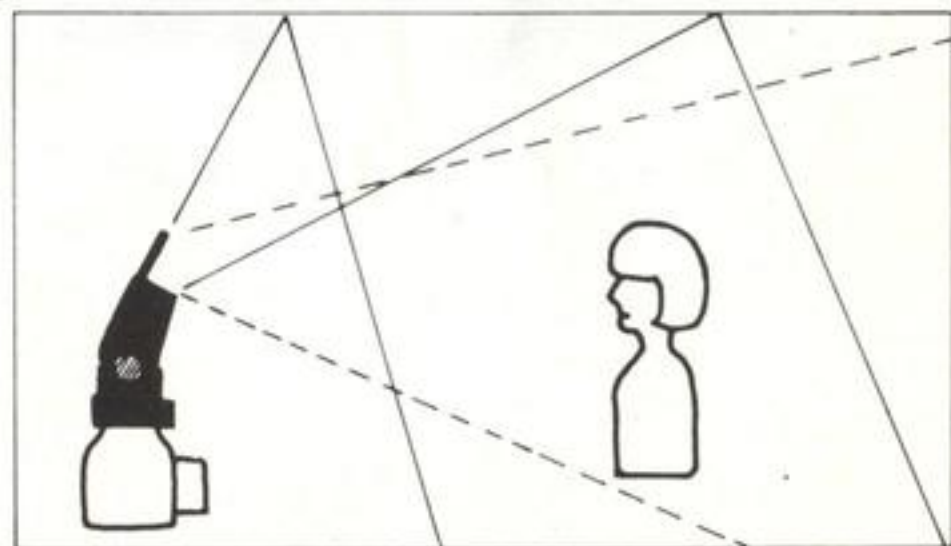
- 照射角度 左右 70°
 上下 50°
- 閃光時間 オート：1/1,500～1/30,000
 マニュアル：1/1,000
- 色温度 約6,000° K (太陽光と同等)
- バウンス
 角度 上下・左右(0°45°60°75°90°)
- 調光範囲 A S A 100 緑(F4) 1.3～7 m
 A S A 100 赤(F8) 1～3 m
- 電 源 単三型乾電池4本
- 寸 法 幅82×奥行102×高さ98mm
- 重 さ 240 g

ストロボ各部の名称



このストロボの特長は、補助反射板(レフ)がストロボ本体の上昇とともに自動的に繰り出す機構です。

光を天井や左右の壁に反射させて、ソフトな照明を得ていたバウンス撮影においては小型のレフをつけたためにソフトなバウンス撮影を可能にしました。

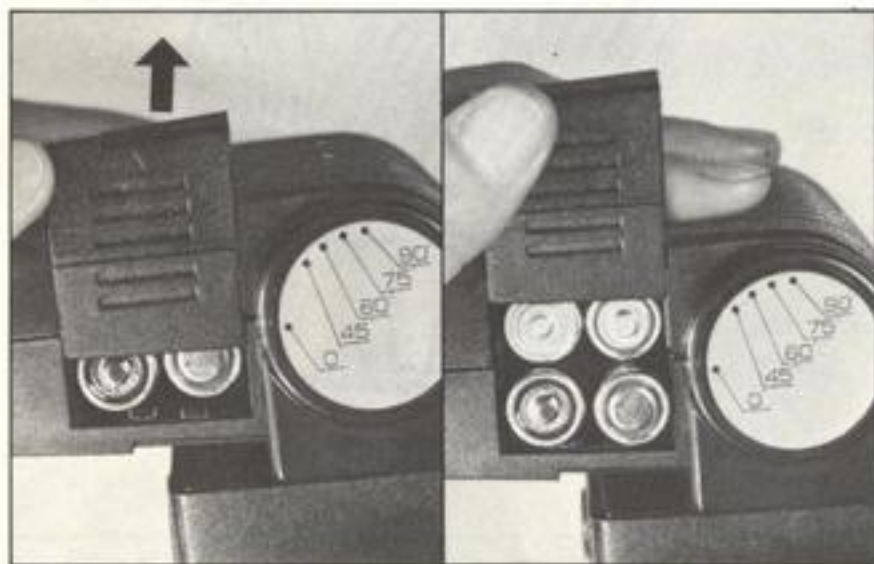


(レフ反射図)

撮影準備・発光テスト

電池の入れ方

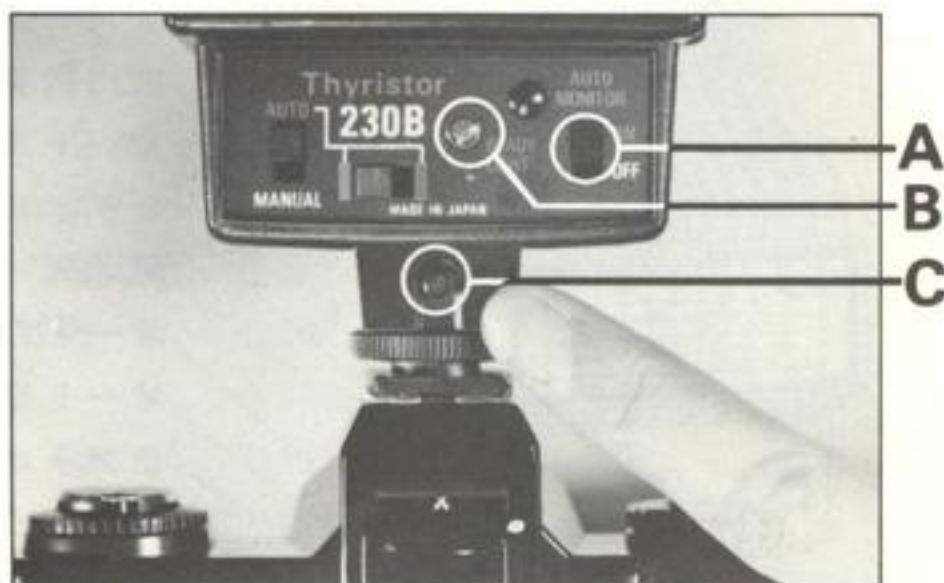
- 1)電池カバーを▷印の方向に押し出してください。
- 2)単三型乾電池4本を⊕⊖の表示通り挿入してください。
- 3)電池を入れたら軽く電池カバーを押しながら、元のように閉じてください。



ご使用法

- 1)電源スイッチを“ON”側にすると電源が入ります。Ⓐ
- 2)“チー”という発振音が聞こえ、数秒でレデエィランプが点灯します。これで準備完了です。Ⓑ
- 3)ご使用後は必ず電源スイッチを“OFF”にして電源を切ってください。

- 4)発光テスト又はオープンフラッシュ撮影の時は、レデエィランプが点灯したらテストボタンを押してください。Ⓒ
シャッターに関係なく単独発光します。



- スイッチを入れてもレデエィランプが点灯するまでに1分以上かかったり、発振音が聞こえにくくなったときは電池が消耗した証拠です。新しい乾電池と交換してください。
- 電池の挿入時絶対に方向を間違えないようにしてください。電池の⊕⊖を間違えますと発光しないだけでなく、発熱や破裂の原因になりますから必ず確認してください。
- 電池は使用しなくてもごくわずかに自然放電していますから、なるべく新しいものをお使いください。

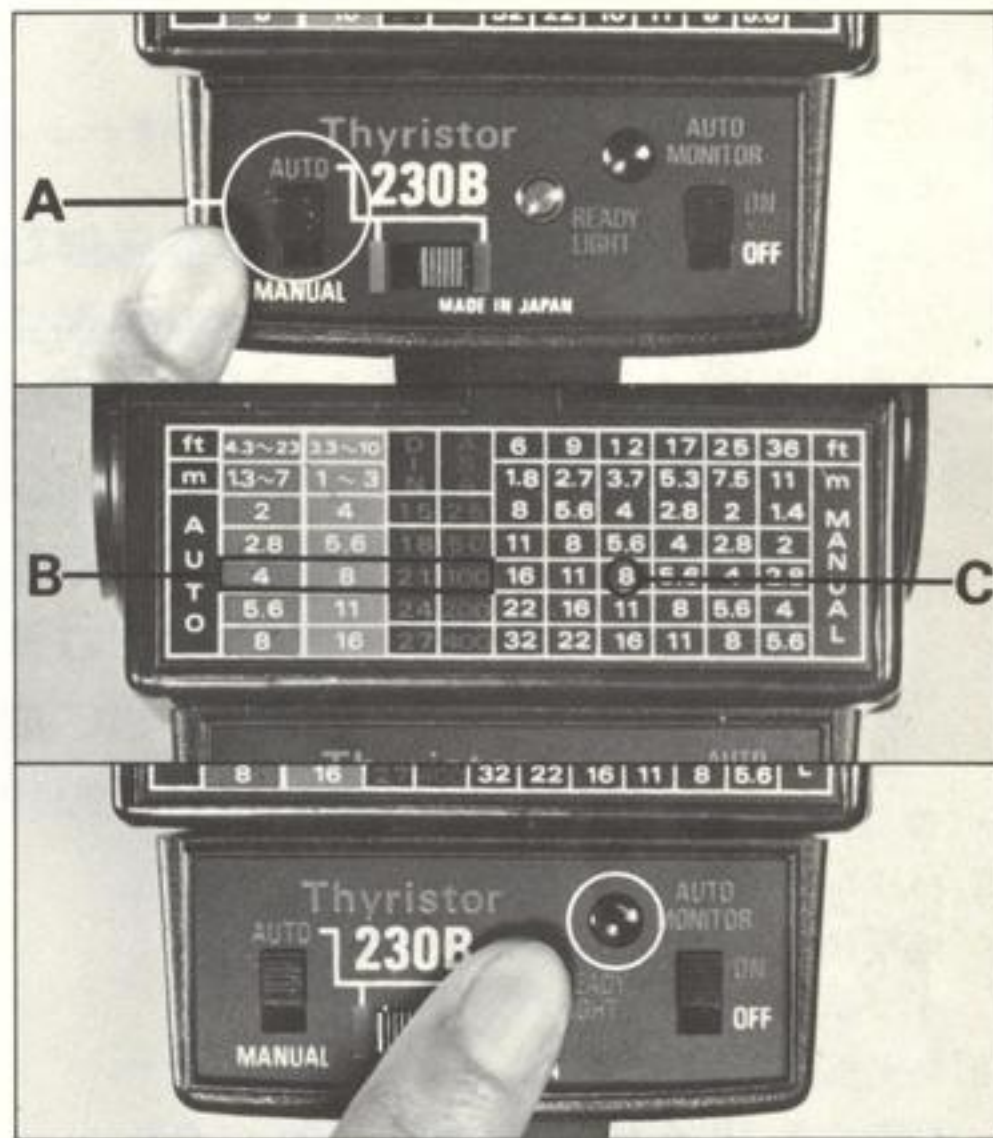
オート撮影・マニュアル撮影

このストロボにカメラのシューのマウントベースを差し込むだけで同調します。なお、シュークランプネジによって、カメラのシューとマウントベースを完全に固定してください。

- 1) オートマニュアル切替えスイッチを“オート側”にしてください。Ⓐ
- 2) 後面にある露出計算板によってオート2段切替スイッチの色位置から使用絞り値を決めてください。たとえば、使用フィルムがASA100であったら緑色位置でF4、赤色位置でF8が使用絞り値です。Ⓑ
- 3) 露出計算板で求めたF数をカメラにセットしてください。下表の範囲内でその撮影距離に合った光量を発光します。

オート2段切替スイッチの位置	自動調光範囲
緑色	1.3~7 m
赤色	1~3 m

- 4) 発光させた時、オートモニターランプが点灯したか確認してください。撮影距離が自動調光範囲を越えるとこのランプは点灯しないのでその時は、被写体に近づいて再度撮影するかマニュアル撮影にしてください。



マニュアル撮影

使用フィルムASA100、距離3.7mの場合

(1) 露出計算板での露出の決め方 ㉟

(2) ガイドナンバーからの露出の決め方

$$\text{絞り値} = \frac{\text{ガイドナンバー (30)}}{\text{距離 (3.7)}} \approx 8.1 = 8$$

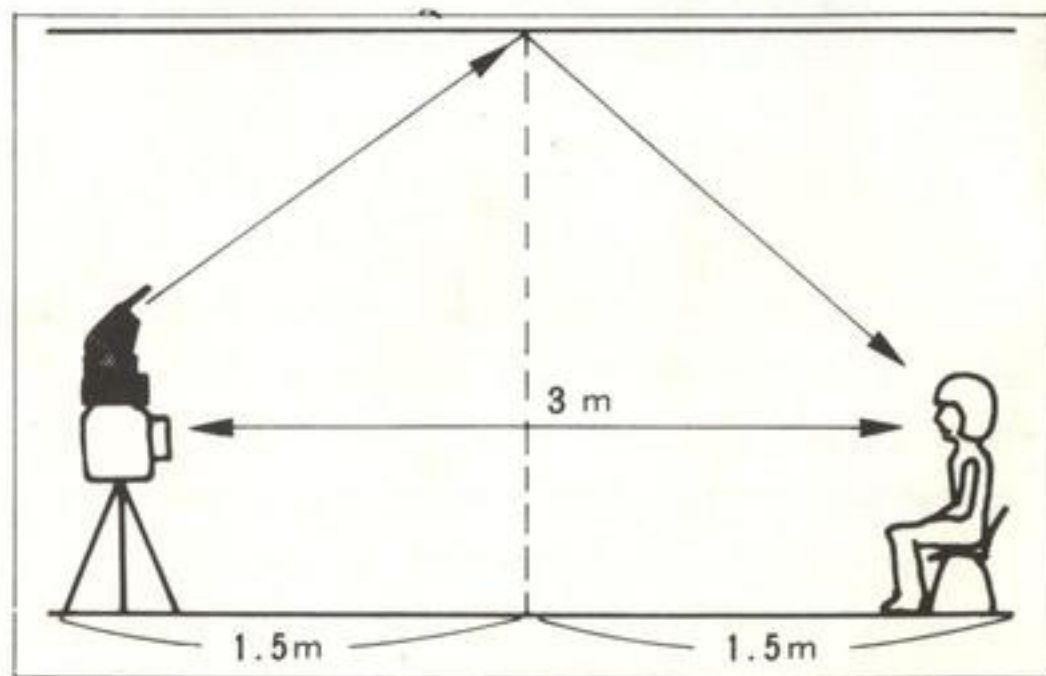
バウンス撮影

オートバウンス撮影

- 1)バウンス撮影時には、特にオートで撮影されると非常に便利です。操作は一般オート撮影と全く同じです。
- 2)シャッターを押す前に、テスト発光させてオートモニターランプが点灯しているか確認してください。
- 3)高感度フィルム(A S A 400)やオート切替スイッチを緑色位置で使用されると一層広範囲のオートバウンス撮影が出来ます。

バウンス撮影時の注意

- 1)バウンス角度は、右図のようにストロボと被写体までの距離の中間上に照射されるように調整してください。
- 2)発光部は上方向に 0° から 90° 、左右 180° まで可変でき、 0° ・ 45° ・ 60° ・ 75° ・ 90° にそれぞれクリックストップがありますので、適度に調整してください。
- 3)補助反射板(レフ)は無理に押し込んだり、また、引っ張ったりしないで下さい。



バウンス角度

ご 注 意

1. 内部に高電圧大容量のコンデンサーが組み込んでありますので、万一故障の際にも絶対分解しないで御買上販売店経由でお返してください。ご自分で分解されたものの修理は、お引受け出来ない場合があります。
2. 湿気を与えたり雨水や海水がかからぬ様御注意下さい。
3. 長時間ストロボを使用しない時は、必ず電池をぬいておいてください。
4. 電池を取替える時は、必ず4本とも新しい電池に入れ替えてください。
5. 汚れが付いた時、布に中性洗剤を少量つけて拭いてください。
(シンナー・ベンジン等の使用は絶対にさけてください。)



埼玉県北葛飾郡杉戸町杉戸1-9-23

TEL 04803 (5) 1240・1241